

主任児童委員連絡会活動紹介

南区主任児童委員は、16地区32名で活動をしています。私たちは、地域の中で特色に合わせた活動をしながら、3月はみなみ桜まつり・10月は健康福祉まつりいきいきふれあい南なんデーなどに参加。ふれあいを通じた「顔の見える関係づくり」を心がけています。11月は区内小中学校専任教諭との交流会を開催し、私たちの活動をより理解して頂き、お互いに連携のあり方を再確認できる良い機会となっています。

地域の中で関係を築きながら、「つかず・離れず・求められたら、いつでも寄り添うことの出来る身近な相談相手」をモットーに、これからも、「喜ばれるおせっかい活動」を続けていきたいと思ひます。

南区主任児童委員連絡会 代表 沖野 真砂美

南区



オレンジリボン たすきリレー

10月20日(日)に「第16回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー」が開催されました。私たちはゴール地点であるグランモール公園「美術の広場」でブースを出展しました。手作りのわたがし・ハロウィンポンポン・エコマイク・風船ロケットを準備。出足はのんびりでしたが、わたがしづくりに慣れたころには長蛇の列！工作を手にした子どもには遊び方を伝え、保護者の方には主任児童委員のチラシを配布し、たくさん交流できました。私たち委員も地区の情報交換ができ、楽しい一日でした。

磯子区主任児童委員連絡会 代表 今井 裕子



スキルアップ研修 開催報告

令和6年11月1日に神奈川公会堂にてスキルアップ研修を開催しました。

加藤 彰彦氏より「子ども・若者をつくる地域(まち)づくり～子ども・若者たちのために、私たちができること～」をテーマにご講義いただきました。

「いつの時代も子ども達にとっては日常生活そのものが学びの場となり、大人をまねることで成長していたが、現代では親以外の大人と触れ合う機会が減少し、様々な体験の機会を失っている」というお話がありました。「心を豊かに過ごすには安心して相談できる場や人との出会いがあることが大切であり、民生委員・児童委員こそが身近で継続的に寄り添える話し相手になるのではないか」とお話いただきました。



沖縄大学名誉教授 よこはま 子ども・若者が孤立しない地域づくり研究会会長 加藤彰彦氏



編集後記

令和6年の秋は、各区色々なイベントが行われて、忙しい毎日ではなかったでしょうか。関東ブロック大会、全国大会も、多くの民生委員と交流ができ、盛大に行われました。いよいよ令和7年12月に向かっての一斉改選も現実のものとなってまいりました。協力員、パトタッチサポーター制度の各委員からの意見集約も進み、今後の活動にどのようにいかしてゆけるか、が楽しみです。

これからも広報紙を通して、各区の活動の情報を発信して、より良い福祉活動の一助になるよう務めます。

広報紙作成委員会 今井 典代

【委員長】	松浦 正義
【顧問】	梁田 理恵子
【委員】	小林 政晴 今井 典代
	黒川 曉博 中村 好美
	鈴木 敦子 小嶋 優
	紅林 千津子 魚谷 晶子

よこはま民児協だより

令和7年3月発行
横浜市民生委員児童委員協議会
横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-8618
<http://www.yokohamashakyo.jp/minsei/index.html>

No.51

会長 あいさつ

横浜には令和6年12月1日現在481名の主任児童委員が活動しています。

近年は欠員の地区も目立つようになりました。民生委員・児童委員とは違い、単位民児協に2～3人という配置なので受け持つ地域も広く、複数の小学校や中学校があるのも珍しくありません。そのような状況の中で主任児童委員の負担も重くなっていると思います。民生委員は児童委員も兼ねていますので、双方が協力してお互いの持っている情報を共有し、地区会長と相談しながら活動していきましょう。連携した活動の事例にこのようなものがありました。「民生委員が把握した子どものいる困窮世帯で主任児童委員に見守りを依頼したら不登校等を抱えていたことがわかった。」「気になる子どもの情報を把握した民生委員が主任児童委員と共有し、共に家庭の見守りをしている。」地域の民生委員・児童委員という強みを生かし、主任児童委員と連携しています。

主任児童委員制度が創設されて30年が過ぎました。創設時は単位民児協に一人でした。当時はどのような活動をするのか周囲の民生委員もわからなかったため、一緒に行動することもなかったように覚えています。今、子どもの数は減少していますが問題を抱えている子、周囲に相談する人がいない若い母親など、見守りや支援を必要とする家庭は減少していません。主任児童委員と児童委員が連携し、子育て、子育てを応援していきましょう。



第93回全国民生委員児童委員大会 参加報告

第93回全国民生委員児童委員大会が令和6年11月20日(水)、21日(木)に宮崎県宮崎市で開催され、全国から約2,700人の民生委員・児童委員、民児協関係者が参加しました。

大会1日目の特別講義「向こう側の笑顔とこちら側の笑顔 ～まずは私が幸せでいよう～」では、KIGURUMI.BIZ株式会社 代表取締役の加納ひろみ氏に、ご自身がシングルマザーとなった時の辛かった心情や、職場の雰囲気づくりについてご講義いただきました。シングルマザーになったときのことを振り返り、「あの時、自分の話を聴いて寄り添ってくれる人がいてほしかった」との話が参加者の印象に深く残りました。

大会2日目は、活動交流集会・シンポジウムがあり、そのうちのテーマ「持続可能な民生委員・児童委員制度、活動に向けて取り組むべきこと」では、令和4年の一斉改選時の委員定数が初めて24万人を超えたこと、改選時点での欠員は約1万5千人で、担い手確保が困難な状況との報告がありました。他都市から、民生委員活動をしやすいように、活動を単独ではなく班単位で行うことや、仕事をしている方も活動しやすいよう企業へのアプローチをしている事例の紹介がありました。横浜市でも活用できるものを今後活かしていきたいと思ひます。



(注)本文中、「民生委員・児童委員」は、とくに必要な場合を除き、「民生委員」と表記しています。

特集 民生委員・児童委員活動をふりかえる

民生委員になったきっかけは？ 続けてこられたのは？



- 民児協会長・民生委員・連合会長・町内会長から声を掛けられた
- P T A活動をしていて主任児童委員に誘われたのがきっかけ
- 子どもがお世話になった方に誘われた

横浜市民児協で
お話を
伺いました！

楽しい！

- 民生委員だからこそ行ける施設見学や研修に参加できた
- 高齢者施設や地域ケアプラザ、介護など、自分にも必要となる情報を得られた

やりがい
がある

- 自分自身も楽しむ
- 一人で抱えず共有する
- 家族・仕事・介護・子育て等を優先し、空いている時間で活動

大事にして
きたこと

- 頼られて嬉しい
- 社会貢献になっている
- 大変な時もあるが、ありがとうの一言で疲れが飛ぶ

勉強に
なる

- みなさんと過ごせる時間が楽しい
- 懇親会や研修旅行で委員同士の親睦が深まる



各区民児協会長 市主任代表

- 周りの人たちの支えがあり続けてこられた
- 知識が増え、自分の生活にも役立っている
- 民生委員になって地域のことを知ったり、知り合いが増え、自分の居場所となっている
- 民生委員になってなかったらどうなっていたのかな…と思うくらい大きな出来事
- 自分の人生が、民生委員になって色づいた
- 明るい色もあれば暗い色もあるが、世界は広がった
- 訪問して「何しに来たの」と言われていた人から、訪問を続けたところ「来てくれてよかった、ありがとう」と言ってもらえた
- サロンで出会ったときには赤ちゃんだった子が、成人となった今でも声を掛けてくれることが嬉しい

これからもつながりを
大切にしていけると
いいね！



地区民児協 活動報告

神奈川区 旭区 港北区

毎号3区ずつ、
特徴的な取り組みをしている地区を
取り上げていきます。

神奈川区 松見地区

民生委員の卒業生と共に

神奈川区の松見地区には18名の民生委員がいます。皆それぞれに仕事を持ちながら無理のない範囲で活動をしています。

松見町3丁目の一軒家を借りて「地域の居場所てんこもりのわ」を民生委員、卒業された民生委員や地域のボランティアで立ち上げました。

立ち上げから8年経ち、火・木の週2回開催し、うち木曜日はランチの提供（要予約）を行っています。

月1回土曜日に子ども食堂を開催しています。参加者は地域を問わず、大人の参加も可能です。毎週20人以上の老若男女が参加してくれています。

高齢者の見守り事業（サービスB）や子育て支援等、関係機関と連携して活動中です。

ボランティアスタッフも少しずつ増えています。次の民生委員になってくれそうな方も（笑）。

松見地区民児協はやるときは力いっぱい、自分たちも楽しくをモットーに活動しています。

会長 加山 勢津子



旭区 希望が丘南地区

「みんなが生き残るため」の 災害時要援護者支援対策

希望が丘南地区では、地域ぐるみで災害時要援護者支援対策に取り組んでいます。防災の動きは平成20年頃から盛んになり、同年には自治会未加入の方も含めた全世帯に対し、「災害時に手助けが必要か」のアンケートを実施しました。

東日本大震災では、民生委員が積極的に安否確認にまわっている様子を見て、自治会が防災に対して前向きな姿勢を持ってくださるようになりました。震災後、民児協が、自治会長と班長・組長に要援護者名簿を提示し、地域全体での見守りネットワークづくりを推進しています。

また、地区独自の災害時要援護者プロジェクトを16年間継続しています。毎年自治会長が変わる中でも、地区連合自治会が全世帯を対象に行う「オレンジリボンによる安否確認訓練」は、今年度9割を超す確認率となりました。要援護者を含む、「災害時みんなが生き残るために！」の協力体制が築かれています。

会長 梅原 美千子



港北区 新横浜地区

大きな励み

「こんな荒天なのに、よく来てくれましたね」「楽しみにしていたから」ある日の高齢者支援のカフェ「くつろぎの場」の、受付での会話です。

当地区は特殊な地域で、「新横浜駅」を中心に、オフィスビルや商業施設、マンションばかりで、戸建てがなく、訪問活動がなかなか難しいという現状です。そこで、カフェの他にサロンやラジオ体操、出張講座等を開催し、私たちは見守りを、住民同士は知り合いになって、毎日生き生きと暮らしてもらいたいと思っています。



「これからランチに行きませんか」「今行くから、待ってて」カフェが終わった後の参加者たちの会話です。この声を、私たちは待っていたのかもしれない。「ありがとう。楽しかった」のお礼の言葉同様に、大きな励みになりました。

会長 新福 まさ子